

HIROKI ISHIKAWA

第221回
2016年
10月20日(木)



食と農のアフリカ史

アフリカ史研究の可能性を探る

アフリカの農業と食文化の歴史については、歴史学のみならず他の学問分野の研究者からも強い関心が示されてきた。本講演では、アフリカの農業と食文化の歴史に関心を持つ研究者による共同研究の成果として、2016年3月に上梓した『食と農のアフリカ史：現代の基層に迫る』（石川博樹・小松かおり・藤本武編、昭和堂）の編集・執筆の経験をふまえ、文字資料が乏しいが故に困難とされるアフリカ史研究が秘める可能性を考える。

石川博樹

（東京外国語大学
アジア・アフリカ
言語文化研究所・
准教授）



YUICHIRO FUJIOKA

第222回

2016年11月17日(木)

サバンナ農地林の社会生態誌 ナミビア北部にみる社会変容と資源利用

藤岡悠一郎（東北大学学際科学フロンティア研究所・助教）

アフリカの乾燥・半乾燥地域の農村では、畑のなかに樹木が点在する景観が各地に成立している。これらの樹木は、人々との深い関わりのなか

で、意図的に畑のなかに残されていることが多いが、そのような関係性は社会や経済の変化とともに推移している。本発表では、ナミビア北中部の農村を対象に、社会経済状況の変化のなかで、人々が樹木をどのように利用し、地域の植生が移り変わっているのかを検討する。



第223回
2016年
12月15日(木)

化学的環境とイベルメクチンの配置

ガーナ南部におけるグローバルヘルスの一側面

2015年にノーベル医学・生理学賞はイベルメクチンの開発に対して授与された。ノーベル財団がグローバルヘルスへの貢献を表彰したことは画期的なことであるが、薬剤を開発すれば自動的に感染症が根絶されるわけではない。そこで本発表では、イベルメクチンの集団投与に焦点を当てながら、グローバルヘルスにおいて薬剤がどのように時空間に配置されているのかを具体的な手続きに注目しながら明らかにしていく。

浜田明範

（関西大学社会学部・准教授）



AKINORI HAMADA

京都大学アフリカ地域研究資料センター

アフリカ 地域研究会

会場：京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室
時間：午後3時～5時 参加無料、申込不要

第224回

2017年1月19日(木)

「ストリート・チルドレン」と出稼ぎ行為のはざま

ワガドゥグ市で実施した統計調査より

本発表は、ブルキナファソ、ワガドゥグ市において2014年に2度に行きつめた「ストリート・チルドレン」の統計調査を元にしたものである。この調査の結果から、「ストリート・チルドレン」と名付けられ、支援組織により社会問題化された少年たちの多くが、出稼ぎ民のように村落と都市を往還していることを示し、少年たちが置かれる位置を考えたい。



清水貴夫

（広島大学教育開発国際協力センター・研究員）

TAKAO SHIMIZU

第225回

2017年2月16日(木)

野生のチンパンジーに「眠り」を学ぶ

座馬耕一郎

（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究
研究所・研究員）

野生チンパンジーはアフリカの森で暮らしている。チンパンジーとヒトの共通祖先は数百万年前のアフリカに生息したと考えられ、その子孫であるチンパンジーとヒトにはいくつもの共通点がある。「眠り」もそのひとつであり、チンパンジーもベ

ッドで眠る。ただしそのベッドはお皿型をしており、毎日、木の上に、枝を組んで作られる。このベッドやそこで眠るチンパンジーの研究を通して、私たちヒトの眠りに関して見つけ直してみたい。



KOICHIRO ZAMMA